

## 令和元年度市長のまちづくりふれあいトーク議事録(藪田地区)

日時 令和元年8月31日(土) 19:00～20:30  
 場所 泊コミュニティーセンター  
 出席者 藪田地区住民 28名  
 市長、企画政策部長、総務部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、  
 消防長、防災・危機管理監、事務局7名  
 内容 19:00～19:05 市長あいさつ  
 19:06～19:35 市政の概要について 市長説明  
 19:36～19:40 地区の事業概要について 事務局説明  
 19:41～20:20 意見交換  
 20:21～20:30 閉会あいさつ

	質問の内容	回答
1	<p>&lt;国道160号の整備について&gt;                      泊地区 男性                      藪田3地区で共通している要望は国道160号の整備である。(国の事業であるが)交通安全対策の進展が見えない。全体的な対応ではなく応急的にやってほしい。                      特に泊地区では、カーブがきつい上、歩道に縁石がなく、歩行者の安全が確保できていない。過去には住宅の塀に車が突っ込む事故があり、今年5月にはスリップの痕があった。危険な箇所であり、応急的な対応をお願いしたい。</p>	<p>建設部長                      国道160号の整備については、6月3日に藪田地区から富山河川国道事務所に要望されており、当市からも7月1日に富山河川国道事務所に、7月30日に北陸地方整備局に要望している。                      当市としても国道160号については、応急的な工事が必要と考えており、現在、泊地区では、国の事業として自転車歩行者道路等の安全施設の整備が、順次進められている。                      今後も、地区から要望のあった応急的な工事箇所について、国に要望していきたい。</p>
2	<p>&lt;「氷見の浜」活性化シンポジウムの参加者について&gt;                      藪田地区 女性                      8月24日に開催された「氷見の浜」活性化シンポジウム(以下シンポジウム)について、漁業関係者の参加は多数あったか？</p>	<p>産業振興部長                      シンポジウムには全体で約80名の方に参加いただいた。内訳は氷見漁業協同組合(以下漁協)から約10名、氷見高校海洋科学科の1～3年生が約30名参加いただいた。                      その他の方は一般参加者として数えていたため、漁業関係者の特定は難しいが、自分が見たところ漁業関係者の参加は少ないように感じた。</p>
3	<p>同女性(産業振興部長の回答を受けて)                      漁業関係者に向けた案内はしていたのか？</p>	<p>産業振興部長                      漁業関係者については、漁協を通じて案内をしていた。</p>
4	<p>&lt;高齢者の避難行動について&gt;                      藪田地区 男性                      8月30日の日中に市内全域で避難勧告が発令された。今回のように、平日の日中に避難勧告が発令された場合、若い人は働きに行っており、家に居るのは老人がほとんどである。この場合、自分で避難できない高齢者の方を、どのように避難させれば良いのか。何か良い方法があれば教えてほしい。</p>	<p>防災・危機管理監                      避難勧告が日中に出た場合の高齢者の避難については難しい課題である。ご自身で避難することが難しい高齢者等の避難については、避難行動要支援者名簿に基づく個別支援計画を策定している地区がある。市内では3地区が策定済みであり、2地区が策定中である。個別支援計画は、具体的に誰がどの方を支援し避難させるかということを決めているが、「日中」「夜間」といった(避難勧告が発令される時間帯など)ケース別に策定している地区はない。                      若い方がいない日中の避難については、地区の方で、声を掛け合い、協力して避難していただきたい。どの地区も同じような課題を抱えている。</p>
5	<p>同男性(防災・危機管理監の回答を受けて)                      今回のような「日中」の避難に対応するには、「日中」「夜間」といった色々なパターンの個別支援計画を自分達で作ることが有効だということか。</p>	<p>防災・危機管理監                      避難が必要な災害が、いつ発生するかわからない以上、そういった方法も有効だと思う。</p>

	質問の内容	回答
6	<p>&lt;藪田児童公園の樹木の消毒について&gt; 同男性 藪田児童公園(以下公園)の草刈りについては、地域で年5回行っているが、樹木の消毒については、市に要望し実施してもらっている。樹木の消毒については、市に要望せずとも定期的に消毒してもらいたい。 また樹木が生長した影響で、公園が薄暗くなってきている。もう少し剪定をキッチリしてもらい、みんなが安らげるような公園整備をしていただきたい。</p>	<p>建設部長 藪田児童公園は、都市計画課の管理施設であるため、今後は、公園内の樹木の剪定や防除について、本市として少し対応を考えていかなければならないと思っている。</p>
7	<p>同男性(建設部長の回答を受けて) 難しい話をしているわけではない。地区から要望せずとも、市が管理している樹木と同じ時期に、消毒や剪定をしてほしいと言っている。 公園内には九転十起の像もあり、恥ずかしくない景観を保つことが必要だと思っている。自分だけでなく、市も公園の景観を保つことについて、一緒になって考えていただきたい。</p>	<p>建設部長 幹線道路沿いにある街路樹については、市で管理しているものもある。公園の管理については、草刈りや防除等と合せて、今後の対応を考えていきたい。</p>
8	<p>&lt;藪田コミュニティーセンターについて&gt; 同男性 藪田コミュニティーセンターは、小学校の統廃合に関連し市で建ててもらったが、その後の維持管理費は地元負担である。しかし、常勤の公民館主事がある公民館の修理費や維持費は市が負担している。藪田コミュニティーセンターと常勤の公民館主事がある公民館との違いを教えてください。</p>	<p>教育次長 常勤の公民館主事がある公民館(以下独立公民館)と藪田コミュニティーセンターについて、(維持管理の面で)違いがあることは認識している。独立公民館は広域的な地区の公民館であるため、市が維持費等を負担していると思う。</p>
9	<p>同男性(教育次長の回答を受けて) 8月に浅野総一郎氏ゆかりの横浜市の中学生を招いた「スタディツアー」が市主催で開催され、藪田コミュニティーセンターに4名の男子が宿泊された。その際、藪田コミュニティーセンター敷地内の電球が切れており、畳も磨り減っていた。折角、遠方から子ども達に来てもらったのだから、恥ずかしくない施設で宿泊してもらいたいと思うが、修繕費等は高額であり地区で負担するにも限界がある。藪田コミュニティーセンターの維持管理費等について、市から支援いただきたい。</p>	<p>教育次長 今回いただいたご意見については、どのようにすれば良いか、今後検討していきたい。</p>
10	<p>&lt;防災行政無線について&gt; 小杉地区 男性 藪田三地区は、小さな谷があり、山を抱えているため、防災行政無線が聞き取りにくい。原因は地域的な問題なのか、市全体としての問題なのか教えていただきたい。合せて対応策があれば考えていただきたい。</p>	<p>防災・危機管理官 「防災行政無線が聞き取りにくい。」というご意見は市内各地でお聞きしているが、本市独特の入り組んだ地形や雨や風といった気象状況で聞き取れない場合がある。業者と共に調査し、調整を行なっているが、「聞き取りやすい」という状態までには至っていない。 防災行政無線が聞き取りにくい、あるいは聞き取れない場合は、テレホンサービスや市ホームページ、ケーブルテレビで確認していただきたい。 テレホンサービスは、この番号でお願いします。Tel 0180-99-7777</p>

	質問の内容	回答
11	<p>&lt;地域づくり協議会について&gt; 同男性 地域づくり協議会の設立に向けて菟田3地区で話し合いが始まっている。設立した場合のメリット、デメリットについて、参考事例を踏まえて、教えて欲しい。</p>	<p>企画政策部長 地域づくり協議会(以下協議会)については、市内21地区での設立を目指しており、これまでに7地区で設立され、2地区で準備会が設立されている。その他の地区でも勉強会が開催されている。 協議会については、設立が目的ではなく、設立する中で、市と地域の皆さんで「地域が抱える課題」を共有し、どのような形で連携・協力し解決していけば良いのかを、考えていく場にしていきたいと考えている。 「地域が抱える課題」は、多様化、複雑化しているが、共通しているのは少子高齢化である。それに対処する方法は地域それぞれであり、公共交通がなくなったことで、NPOバスを運行している地域もあれば、健康づくりを中心に地域のつながりを強くしようと、カローリングを行っている地域もある。 協議会の設立に際し、まずは「地域が抱える課題」を見出し、出していくことが大切である。しかし、設立にあたって「地域の負担が増えるのではないか。」という懸念もあると思う。「地域の負担がない。」とは言えないが、設立に向けた話し合いを進める中で、より良い地域づくりと一緒に目指していきたいと考えている。</p>
12		<p>市長 地域づくり協議会の良い事例については、仏生寺地区の地域づくり協議会では、防災に力をいれ、独自に防災マップを作っている。その中には支援が必要な高齢者宅等を記載し、地区で把握するようにしている。 先ほどの「誰が日中、高齢者の避難を支援するのか？」という課題については、身近な地域で、特に自主防災会や地域づくり協議会が中心になり、解決していただかないと思う。普段顔の見える関係の中で、支援が必要な方を把握していただき、具体的な支援の方法を地域の中で考えていただきたい。 独立公民館と地域の公民館の差を解決する方策として考えたのが、地域づくり協議会である。地域づくり協議会を設立していただくことで、地域づくり協議会で必要になる人件費や事務所の運営費について、補助制度を設けさせていただいた。人件費と運営費を合わせると最大で約160万円の補助金となる。そういった制度も有効に活用していただきたい。</p>

	質問の内容	回答
13	<p>&lt;避難行動要支援者名簿の取り扱いについて&gt;            藪田地区 女性            8月30日の避難勧告の際に、地区で要支援者の安否確認をしていた。その際感じたのは、避難行動要支援者名簿(以下名簿)を地区で共有していないと意味がないということである。自治会長をはじめ地区で数人しか名簿を把握していない現状では、今回のように日中に避難勧告が発令されると、名簿を把握している人が地区におらず、すぐに対応できない。            個人情報である名簿は慎重に取り扱うことも必要だが、地区で共有できるように検討いただきたい。今回、実践してみて初めて「名簿を作り、個別支援計画を策定するだけでは、人命を助けることはできない。」ということに気付かされた。</p>	<p>防災・危機管理監            避難行動要支援者名簿(以下名簿)については、各地区の自治会長、自主防災会長、消防団、民生委員にお渡ししているが、支援が必要な方を100%網羅している訳ではなく、名簿への登録に同意された方だけが記載されている。そのため、名簿以外に支援が必要な方が地区にいる可能性がある。また、名簿と合わせて個別支援計画を策定することで、実際の支援に繋がると考えている。            藪田地区では、今年度から防災マップ作りに取り組まれていると聞いている。マップ作りの中で、避難が必要な方を把握していただき、普段から、防災への意識を高め、情報を共有していただきたい。</p>
14	<p>&lt;垂姫川の改修について&gt;            藪田地区 男性            少しづつ改修をしてもらっているが、以前に改修してもらった箇所がすでに老朽化しており、大雨の際に気になる。</p>	<p>建設部長            今年度もコンクリートによる護岸補修を予定している。全面改修は難しいので、危険箇所について要望いただければ、その箇所を重点的に改修したい。</p>
15	<p>&lt;要望に対する対応状況について&gt;            泊地区 男性            平成29年のふれあいトークでお願いした急傾斜擁壁部の破損箇所の補修工事について「県が急傾斜施設を点検し、施設の健全性を調査する。」と回答いただいたが、進展がわからない。            また、後日でもよいので泊地区の要望に対する状況について教えてほしい。</p>	<p>建設部長            現在、県が急傾斜地崩壊防止施設(以下施設)長寿命化計画を策定中と聞いている。その中で各施設を調査し、どの施設から対策工事を行うか検討している。            当市には該当する施設が全域にあり、県からは、藪田地区においても多数施設があるため、優先度の高い施設から進めていきたいと聞いている。また施設が破損した場合には、その箇所を優先して補修工事を実施すると聞いている。            個別なことについては、担当課に聞いていただければ回答させていただきます。</p>
16	<p>&lt;地域活力施設整備支援事業について&gt;            小杉地区 男性            補助率が2分の1の補助制度であるが、自治会の規模によっては自己負担が厳しい地区がある。上限金額についても、事業によっては多額の整備費が必要になるケースがある。そのため時間はかかると思うが、今後、自治会の規模や事業規模に応じた補助制度を検討してほしい。</p>	
17	<p>&lt;藪田小学校廃校に関する地元への還元方法について&gt;            同男性            平成29年度のふれあいトークで、藪田小学校廃校に伴う小学校跡地の売却益2000万円の一部を(市から)地区に還元したいという話があったが、藪田小学校にあったスズカケノキを何かの形で残そうと、伐採後、木板に加工したものを地元で数十枚保管している。この木板の活用方法を含めて、売却益の地元への還元方法を検討していただきたい。</p>	